

# 大阪府感染症発生動向調査週報（速報）

2018（平成30）年 第28週（7月9日～7月15日）

## 今週のコメント

～ヘルパンギーナ・手足口病～手洗いが重要

### 定点把握感染症

「ヘルパンギーナ、手足口病増加、RSウイルス感染症も引き続き増加」

第28週の小児科定点疾患、眼科定点疾患の報告数の総計は前週比11.6%増の2,669例であった。定点あたり報告数の第1位は感染性胃腸炎で以下、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、ヘルパンギーナ、手足口病、RSウイルス感染症で、上位5疾患の定点あたり報告数はそれぞれ4.6、2.6、1.6、1.4、0.9であった。

感染性胃腸炎は前週比7%減の920例で、南河内7.4、泉州6.2、大阪市南部5.8、北河内5.6である。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は4%増の524例で、堺市4.5、中河内・南河内3.4、豊能3.2であった。

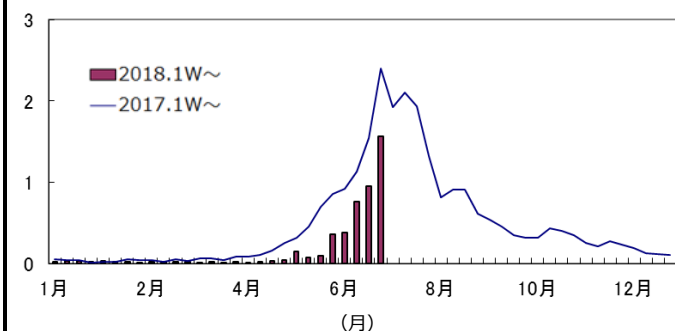
ヘルパンギーナは64%増の310例で、北河内4.0、大阪市北部3.9、豊能1.8である。

手足口病は39%増の280例で、北河内3.9、泉州2.7、三島1.7であった。

RSウイルス感染症は50%増の183例で、大阪市北部1.8、南河内1.7、堺市1.6である。

ヘルパンギーナ

(定点あたりの報告数)



手足口病

(定点あたりの報告数)

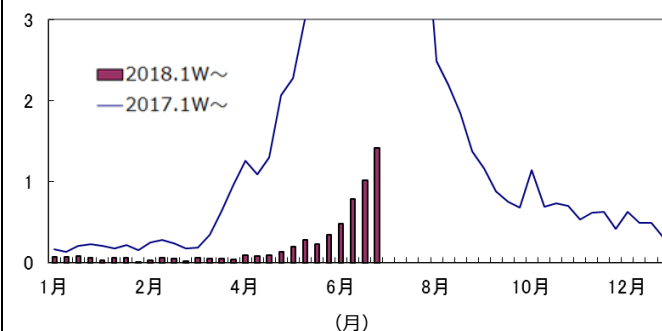


表1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2018（平成30）年 第28週 7月9日-7月15日）

第28週の順位	第27週の順位	感染症	2018年 第28週の 定点あたり 報告数	前週比 増減	2017年 第28週の 定点あたり 報告数	2018年 第28週の 年齢別 患者発生数 最大割合値
1	1	感染性胃腸炎	4.6	7%減	5.3	1歳_16%
2	2	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2.6	4%増	2.4	5歳_14%
3	4	ヘルパンギーナ	1.6	64%増	2.4	1歳_29%
4	3	手足口病	1.4	39%増	14.4	1歳_25%
5	6	RSウイルス感染症	0.9	50%増	0.7	1歳未満_40%

## 第 28 週のコメント

～バンコマイシン耐性腸球菌感染症～ 昨年より、大阪府内で報告が続いております

### 全数把握感染症

#### バンコマイシン耐性腸球菌感染症

バンコマイシン耐性腸球菌（VRE）は、バンコマイシンに耐性を獲得した腸球菌である。術後患者や感染防御機能の低下した患者では腹膜炎、術創感染症、肺炎、敗血症などの感染症を引き起こす場合があるため、集中治療室や外科治療ユニットなど易感染者を治療する部門で問題となっており、臨床的、疫学的に重要な薬剤耐性菌である。VREによる術創感染症や腹膜炎などの治療は、抗菌薬の投与とともに感染巣の洗浄やドレナージなどを適宜組み合わせで行う。

[感染症疫学センターはこちらへ\(外部リンク\)](#)

[感染症の話\(国立感染症研究所\)](#)

(累積報告数)

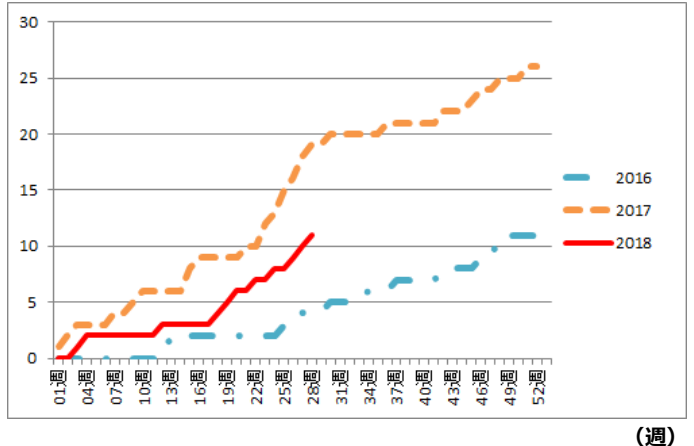


表 2. 大阪府全数報告数 ( 2018(平成 30)年 第 28 週 7 月 9 日 - 7 月 15 日 )

\* ) 注意 : この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります

疾患名	報告数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	府内累積報告数
3 類感染症	報告はありません									
4 類感染症	A 型肝炎	1							1	24
	レジオネラ症 (肺炎型)	2			1				1	56
5 類感染症 (麻しん、風しんは除く)	アメーバ赤痢	1	1							41
	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	1	1							88
	急性脳炎	1	1							15
	後天性免疫不全症候群	1							1	72
	侵襲性肺炎球菌感染症	2	1		1					173
	梅毒	7							7	622
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1				1				11
百日咳	6	2				1		1	244	
結核 (2018 年 5 月分)	結核 新登録患者数 : 147 名 (内 肺・喀痰塗抹陽性 61 名) (府内累積報告数 723 名、内 肺・喀痰塗抹陽性 285 名)									
麻しん、風しん	報告はありません									

(2018 年 7 月 17 日 集計分)